令和5年度　兵庫県立のじぎく特別支援学校　　学校評価結果

自己評価の評価基準	A	よくできた。十分達成している。	目標に対して具体的な方策が順調に進行しており、当初の成果が得られていると判断される。
	B	できた。おおむね達成している。	目標に対して共通理解をもち、具体的方策の実行に着手しつつある。
	C	あまりできなかった。あまり達成されていない。	目標に対する方向性はあるが、共通理解が十分でなく、全体的に停滞している。
	D	できなかった。ほとんど達成されていない。	現状に満足して、問題意識がない。問題意識はあっても手つかずの状態である。

1 評価結果の分析

■昨年と比較（「A」評価の差　10%以上高い項目　　10%以上低い項目　　■今年度「A」「B」評価の割合が80%より低い項目

領域	評価の観点			評価項目	R5年度（%）					R4年度（%）				R3年度（%）			
					ABの割合	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
学校経営の重点	開かれた学校づくり	学校情報の発信等を推進し、地域に開かれた学校づくり	1	保護者、関係機関、地域社会に対して、本校の取組等に関する効果的な情報発信ができたか。	87	12	75	10	4	14	73	12	1	6	68	24	2
			2	保護者、関係機関、地域社会から、本校の取組等に関する意見等を収集できたか。	85	12	73	12	4	7	78	15	0	7	57	32	4
			3	収集した意見を共有し、教育活動に生かすことができたか。	85	17	68	12	4	7	73	18	2	13	55	26	6
	教職員の資質向上	校内研修体制の整備	4	授業改善等に向けて協議し、実践を通して子どもの学びに変容がみられたか。	88	27	61	11	1	11	70	18	1	16	61	19	4
			5	研究・実践をとおして、知的障害・肢体不自由教育の専門性向上が図られたか。	82	21	61	15	2	9	70	21	0	17	58	24	1
			6	資質向上に向け、計画的な研修体制が整えられたか。	82	24	58	15	2	14	63	22	1	14	60	23	2
	働きがいのある職場づくり	ワーク・ライフ・バランスの実現 勤務時間の適正化を推進	7	勤務時間の適正化を念頭に、従事時間を見直す雰囲気が醸成されたか。	73	21	52	24	2	11	63	23	3	12	52	31	5
			8	教材や資料の共有化に向けた取組みが推進されたか。	81	17	64	17	2	7	63	27	3	14	54	29	3
			9	働きがいのある職場づくりへの改善意識が向上がみられたか。	70	14	56	26	4	8	58	32	2	9	62	26	3
			10	校内行事の見直し等、業務の精選が行われたか。	67	15	52	29	4	6	44	44	6	7	56	34	3
	危機管理体制の整備	個人情報の管理システムの確立	11	「情報資産の分類と管理」をもとに、個人情報流失防止に向けた体制づくりが組織として高まったか。	95	37	58	4	1	23	69	8	0	11	63	23	3
		災害への取り組み	12	予測しえない災害等に柔軟に対応することができるか。	85	21	64	14	0	8	66	24	2	5	60	32	3
			13	本校が抱える課題への対策を推進したか。	75	20	55	24	1	4	62	32	2	4	60	33	3
	校内支援	校内支援体制の整備 教育相談、学校支援等の充実	14	計画的な相談機会を企画し案内を行ったか。	87	19	68	12	1	13	73	13	1	9	67	19	5
			15	相談ニーズに応えることができたか。	82	20	62	17	1	11	76	12	1	6	67	20	7
			16	コーディネーターを中心に専門家や関係機関と連携して支援できたか。	91	29	62	7	2	26	63	11	0	21	54	17	6
教科指導・生徒指導・進路指導の重点	個に応じた学習指導の徹底	個別の指導計画の作成・活用	17	個に応じた個別の指導計画を作成し、指導の充実に活用したか。	87	30	57	12	1	12	81	7	0	19	57	17	7
			18	指導目標、方法、指導内容を子どもの状況に応じて修正・改善できたか。	88	30	58	11	1	13	74	12	1	20	57	15	6
			19	個別の指導計画の評価に基づいて引継ぎが十分に行われたか。	83	19	64	14	2	10	70	19	1	11	61	24	4
			20	新学習指導要領における3観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に基づく学習評価の改善意識が共有されたか。	88	21	67	10	2	18	65	17	0	14	57	23	6
		教育課程の適応と実施	21	各学部・分教室で、それぞれの子どもに対応する類型が適切であったか。	91	23	68	10	0	11	75	14	0	19	56	20	4
			22	それぞれの子どもたちの類型・教育課程に基づいて指導できたか。	89	20	69	11	0	8	76	15	1	17	57	21	3
			23	研修等により、教育課程への理解力が高まったか。	83	20	63	14	2	13	71	15	1	16	57	23	3
	進路指導	進路指導体制の充実	24	地域・家庭及び関係諸機関との連携を深め、よりよい進路指導ができたか。	82	17	65	15	2	18	70	11	1	14	64	16	5
			25	進路指導について教職員が共通理解する取り組みが促進したか。	75	14	61	23	2	11	66	22	1	11	59	25	4
	特別活動(学校行事など)	心のかよいあう明るく元気な仲間づくり	26	子どもの活躍の場を設定し自立につなげ、社会性が育成できるような、学校行事や学部行事、生徒会活動や委員会活動となっているか。	89	24	65	11	0	10	82	7	1	13	65	18	4
			27	協力して仕事をさせる等、仲間づくりを意識した指導の工夫がなされているか。	93	32	61	7	0	19	73	7	1	21	55	17	7
課題教育	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	28	企画立案にあたり、工夫改善が見られたか。	91	23	68	10	0	16	77	6	1	13	59	23	3
			29	職員や子どもたちが当事者意識を持ち、個々の役割を理解したうえで訓練等に取り組めたか。	90	19	71	8	1	15	75	9	1	11	63	22	4
			30	訓練等が個々の実践力、意識の向上につながったか。	89	18	71	10	1	13	77	9	1	11	67	19	3
	人権教育	人権教育推進体制への取組	31	人権意識の向上につながる研修を行えたか。	81	27	54	17	2	13	73	14	0	14	59	25	2
			32	子どもへの指導場面や職員間の会話等において、人権を意識した言動が日常的に行われているか。	78	20	58	19	2	8	68	21	3	16	60	19	5
			33	学校いじめ防止基本方針に基づき、学校生活アンケート等により、いじめの未然防止に努めることができたか。	90	32	58	8	1	29	70	1	0	17	56	18	7
	交流及び共同学習	他校、地域等との交流及び共同学習を推進	34	相手校や各学部・学年間で目的を共有し、多様な在り方を認め合う相互理解の推進が図られたか。	85	24	61	14	1	11	69	16	4	11	60	27	1
			35	十分な打合せのもと情報を共有し、計画的・継続的に実施できたか。	88	24	64	12	0	14	69	12	5	10	60	25	3
	キャリア教育	自立に向けた、学部・学年の系統だった指導	36	各学部・学年の教育活動をキャリア教育の視点でとらえなおし、系統的な教育計画の立案に反映できたか。	83	14	69	15	1	4	74	21	1	8	62	28	1
			37	キャリア教育について保護者に十分説明し、理解と協力が得られたか。	68	13	55	30	2	2	61	33	4	6	63	28	3
			38	キャリア教育の視点を授業や評価に取り入れることができたか。	76	12	64	20	4	7	71	20	2	10	65	24	1

学校関係者・ 教職員からの意見
1 生徒の呼称について、特に高等部の生徒に対し卒業後を意識した呼びかけ（～さん）や、自ら考え動く力を育むために必要最小限の声かけについて共通理解し、意識していきたい。 2 研修・研究への意識、意欲の向上を図っていきたい。 3 全体研修が少ないと感じた。生徒個別のOTPTSTは実施されているが、少数の教員しか情報を得ていないのがもったいない。外部講師が15時以降に全体に話をしてくれるだけでも教員意識が変わるかもしれない。 4 肢体不自由だけでなく、知的障害・発達障害などの理解を深める校内研修を実施するべき。 5 肢体不自由児は少数派であるが、どの教師でも担任ができる体制づくりとして全体研修を充実させてほしい。 6 業務過多で忙しい中ではあるが、教員一人一人が自分の役割を自覚し、互いに相談・協力しながら共通理解を図り、一つ一つ丁寧に業務を遂行し、より良い学校経営につながるとよいと思う。 7 本校は医療的ケアの環境はかなり手厚く充実しているが、学校全体の肢体不自由の研修が少ない。肢体不自由の職員研修を年度当初に新転任者、または初めての肢体不自由担当者に最低限のことでいいので研修した方がいいと思う。学部によっては、車いす生徒が車いすから降りる機会がほとんどなく身体の学習等の時間が確保されず、知的の教育課程に準ずる内容でしかないと聞く。個別の専門家相談等があるが、全体で基礎的な専門性を学ぶ機会があればと思う。すぐに難しければ、必要な知識・専門用語などの学校独自の資料等があればと感じる。また、安全にかかわる摂食指導の研修、医ケアではないが二次調理が必要な児童・生徒対象で誤嚥や窒息を想定した緊急体制訓練等を行う必要があるように思う。訓練台やマット等、肢体不自由に必要な教材教具も少ない。県立の特別支援学校は肢体不自由の経験者が少なく、今後も現状は変わらないと思われるので、個人で研修を積む以外にも学校独自の研修の機会を設けて欲しい。 8 行事の精選が急務 学習発表会のあり方について 交流の在り方についても再考を。また進路指導を根本的に見直すべき。3年生の12月になってなお実習とは?将来を見とおした系統的な進路指導であるべき。 9 職員同士でのコミュニケーションに必要以上の上下関係や威圧、圧迫を感じさせるものを多々感じる。 10 担任としての視点で回答するしか材料がないので、果たしてこれが学校評価に置き換えていいのか?毎回このアンケートの回答には悩みます。 11 医療的ケアが必要な生徒たちへの理解が、どれだけ教員間で共通理解できてきたのかが不安である。また、法律も改定され兵庫県でもこの法律を推進すると表明しているのに、具体的な手立てが見えてこないのはなぜでしょうか。 12 教職員が意思統一して、生徒の指導に関わることができればよいが、なかなかそう行かないことがある。 13 様々な事案に基づいて取り組みがなされていると思います。 14 6時までに退勤はしているが、仕事量は減っていないので、結局は自宅へ持ち帰っている状態である。教材研究も休みの日に行わないと間に合わない状況であることを知っていただきたい。
改善方策の提案（アンケートより）
3に対する改善策 →外部講師を招いた校内（全体）研修の実施。 7に対する改善策 →計画的な研修の実施、講師招聘の予算の確保、予算の適正な分配（看護師配置の工夫、マンツーマン体制から弾力的運用 医療用ベッドは本当に必要な生徒の分だけでよい） 8に対する改善策 →行事検討委員会で行事の精選を 9に対する改善策 →特定の人への贔屓や、どんな人とも協力しようという一番基本となる人権意識を持てたらと願う。まずは自分も気を付けようと思う。 10に対する改善策 →夫々の立ち位置、視点から回答することを明確にできるようになれば、回答しやすくなると思います。 11に対する改善策 →専門家を呼んで、学部学年を越えた研修を実施する。 12に対する改善策 →学年で共通理解を図り、同じ方向性で進むことが必要である。 14に対する改善策 →勤務時間以外に、先生方の実情を把握していただきたい。 その他 施設と学校との関係で、以前に比べて施設側の都合が優先されすぎのように感じることがあった。
R6年度へ向けて
・個人評価A・Bの4合計が80%以下の項目が（前年度13項目から）8項目へ減少した。 Aの項目が（昨年度より）10%以上高い項目が、19項目となった。 →ここ数年と比較して、様々な活動ができたことも大きいと思われる。今後、より前向きな学校改善に繋げていけるようにする。 →よりよい学校作りへ向けて、前向きな指摘や改善策のついて意見をいただいた。各学部や校務分掌などで検討し、学校全体の改善につなげていく。（幼児児童生徒の自立へ向けた共通理解についても同様に適切なOJT等を検討していく） ・職員同士のコミュニケーションについては、行き過ぎた言動がないよう注意していきたい。 ・職員の勤務時間や負担軽減、学校行事の精選などについては、今後も継続して改善策を検討していきたい。 ・本校には、様々な（医療的ケア・肢体・単一・総リハ訪問学級等）幼児児童生徒が在籍している。 ※医療的ケアと総リハ訪問学級児童生徒数は増加傾向がある。夏季休業中に実施している学習会においても、これらの内容の研修を充実させていけるようにしていきたい。 ※職員の負担増とならないよう、現在実施している夏季学習会中の学習会を活用する。 ・生徒の呼称など人権上の配慮については、さんづけとなっているが、より徹底していけるようにする。